



Form Sangyo

NETIS 登録 No.HK-110038-A

自然環境にやさしい植物油コンクリート剥離剤

ハクリコート ECO



FS 地球環境を考える
有限会社フォーム産業
〒891-0150
鹿児島市坂之上六丁目15番17号
TEL(099)263-0770 FAX(099)263-0788
ホームページ : <http://formsangyo.co.jp/>
メールアドレス : info@formsangyo.co.jp
Form Industry Co., Ltd.

代理店

コンクリート製造の環境問題を解決します

地球環境を考えたコンクリート剥離剤

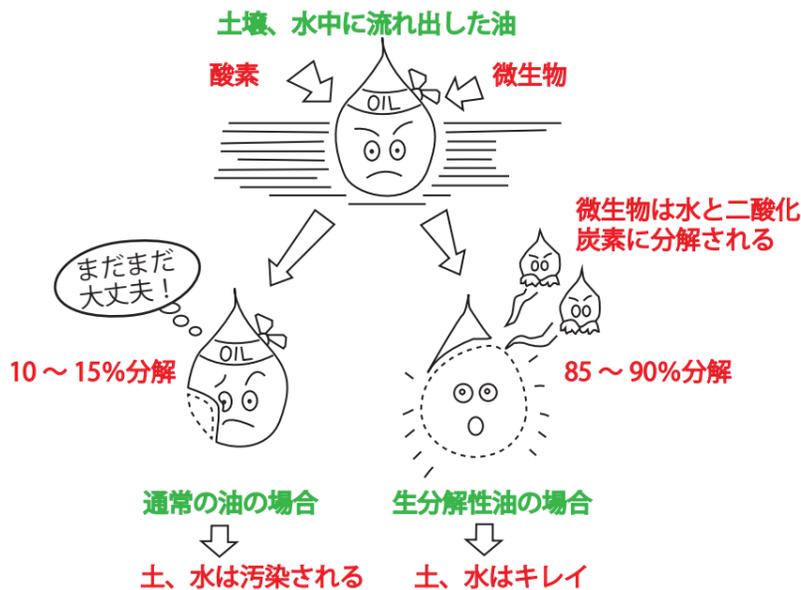
ハクリコート・ECO

は植物油を基油としており生分解性を有しております。

21世紀を迎えた現在、社会的風潮として世界規模での地球環境保護がいられています。当然、産業界にも当てはまり各企業はISO14000シリーズの認証取得、環境保護活動に取り組んでいます。しかし、「環境に優しい」商品の使用が従来品と比べコストが掛かったり性能面で劣ったりの理由であまり積極的に使用されておりませんがハクリコート・ECOは鉱油から出来た従来品に比べ性能面で劣ることなく、コンクリート表面をいつまでも美しく保ちます。

生分解性コンクリート剥離剤ってどんなもの？.....

生分解性コンクリート剥離剤は、鉱油で作られた物に比べ、型枠にスプレー、ローラーなどで塗布中に大気、土壌、海、河川等に飛散、漏洩しても自然環境及び人体に対する影響はすくなく自然界に存在する微生物が油分を食い潰し、油分がほとんどなくなってしまう剥離剤のことをいいます。油分を食い潰した微生物自体も、二酸化炭素を見ずに分解されて自然界に戻るため、自然界に影響を与えることがほとんどありません。



日本の生分解性油剤

日本には、生分解性油剤の使用を義務付ける規格や規制はありませんが、自然体系に及ぼす影響も無視できません。生分解性の試験はOECD(経済協力開発機構) ASTM(アメリカ材料試験協会)が定めた試験方法で、28日以内に生分解性率が60%以上のものを生分解性油剤としています。

潤滑油剤の種類別生分解率 ※1

潤滑油剤の種類	生分解率 (%)
鉱物油 (ナフテン系)	5 ~ 10
鉱物油 (パラフィン)	40 ~ 60
植物油	80 ~ 100
エステル系合成油	0 ~ 100

当社製剥離剤の生分解率の比較

剥離剤名	生分解率 (%)
ハクリコート ECO	99.2
ハクリコート A-1 ※2	32.3

試験期間 大阪市立工業研究所 試験方法 OECD-301C

※1 潤滑油剤は基油に添加剤が配合され製造されるので最終製品である潤滑油剤の生分解率は基油の数値より下がる。

※2 ハクリコート A-1ha 鉱油の剥離剤です。

生分解性油剤の要求箇所と種類

- 開放系・・使用中にそのほとんどが環境に放出され自然界に与える影響が大きい物に使用する回収出来ない油剤
→コンクリート剥離剤、グリースチェーンソー油等
- 閉鎖系・・不慮の事故で環境に漏れる可能性があり、動植物等に与える影響が大きい物に使用する油剤
→油圧作動油等

参考文献) (株)潤滑通信社 1999年10月 NO.24 メンテナンス・テクノミスト

ハクリコート・ECO

鉱油には4~8%の多環芳香属化合物(発ガン性化合物)が含まれていますが、ハクリコート・ECOは鉱油を使用しておりませんので、多環芳香属化合物は含まれておりません。原料の基油は天然油脂から誘導される低粘度の植物油エステルで生分解性があり環境にも優しく、いやな臭気も無く、皮膚に刺激も与えず、人体にも安全な油脂です。引火点は210℃であり安全性が高い。

ハクリコート・ECO (油性剥離剤) 第4類第4石油類 指定数量6000L

- 用途 ●鋼製、木製合板、ステンレス、アルミ、セメント型枠
- 特徴 ●剥離剤による色付きが無く、気泡が少なくいつまでも白く美しい表面を保ちます。
●生分解性率が高いため自然界に飛散、漏洩してもほとんど悪影響を与える事はありません。
●コンクリート面の油分が残存しづらく、2次施工のモルタル仕上げ、タイル張りの付着強度を阻害しません。
- 使用方法 ●スプレー、モップ、ローラー等で原液でそのまま型枠に塗布してください。
- 注意事項 ●冬期間、-18℃以下での使用・保管の場合、凍結防止策を施してください。

現在、世の中は環境保護が時代のトレンドになっていますが、潤滑油の分野では生分解性の使用がそれほど浸透していません。"環境保護"や"環境対策"を考えていくうえで、目に見えない箇所で行われている潤滑油にも環境を考慮した「生分解性潤滑油」の使用が必要です。

